



6 課 ^{してん うご} ^{しゅだん} ^{うけみ しえき しえきうけみ} ^{つか わ}
視点を動かさない手段-3 受身・使役・使役受身の使い分け

A ^{うけみぶん} ^{つか} ^{ぼあい}
受身文を使う場合

1. ^{わしゃ} ^{だいさんしゃ} ^{こうい} ^{できごと} ^{えいきょう} ^{ちよくせつてき} ^{かんせつてき} ^う ^{あわ}
 話者が、第三者の行為または出来事の影響を直接的・間接的に受けたことを表すとき
 (主語はふつう話者、または、動作主よりも心理的に話者に近い人) →第3部4課

例・わたしは山中さんにドライブに誘われた。
 (主語=わたし 動作主(誘った人)=山中さん)

・母は電車の中でだれかに足を踏まれてけがをした。
 (主語=母 動作主(踏んだ人)=だれか)

2. ^{しゅだい} ^{じょうほう} ^{たいせつ} ^{どうき} ^{しゅたい} ^い ^{ひつよう}
 主題についての情報が大切なため、動作の主体をはっきり言う必要がないとき

例・事故でけがをした人たちはすぐに病院に運ばれた。(運んだ人=?)
 ・いじめられた子は転校してしまった。(いじめた人=?)
 ・この寺は15世紀に建てられた。(建てた人=?)
 * 主題とともに動作主も大切な情報のときは「～によって」を使って表します。
 ・キリスト教はフランシスコ・ザビエルによって日本に伝えられた。

3. ^{しぜん} ^な ^{きもち} ^い ^い ^{たい} ^{とき} ^じ ^{はつ} ^{あわ} ^{ぶん}
 自然にそのような気持ちになると言いたいとき：自発を表す文
 (心の動きを表す動詞を使う。)

例・この写真を見ると、昔のことが思い出される。
 ・就職難はさらに続くと思われる。
 ・この音楽には何ともいえない優しさが感じられる。

B ^{しえきぶん} ^{つか} ^{ぼあい}
使役文を使う場合

1. ^{ほか} ^{ひと} ^に ^{ある} ^{どうき} ^を ^{する} ^{よう} ^に ^{きようせい} ^{する} ^{とき}
 ほかの人に、ある動作をするように強制するとき
 (主語はふつう動作主よりも立場が上の人)

例・わたしは弟に荷物を持たせた。(強制した人=わたし 持った人=弟)
 ・監督は選手たちを毎日30分走らせた。(強制した人=監督 走った人=選手たち)

2. ^{ほか} ^{ひと} ^の ^{こうい} ^を ^{ゆる} ^す ^{とき}
 ほかの人の行為を許すとき

例・先生は学生たちに自由に意見を言わせた。(許した人=先生 言った人=学生)
 ・両親は妹に好きな道を選ばせた。(許した人=両親 選んだ人=妹)

3. ^{ある} ^{こと} ^が ^{げんいん} ^で ^{ひつぜんてき} ^に ^{その} ^{よう} ^な ^{かんじょう} ^が ^{おこ} ^る [・] ^{こうい} ^を ^{する} ^と ^{いう} ^{とき}

例・電車が遅れて友達を30分も待たせてしまった。(待った人=友達)
 ・公園の美しい花が行楽客を楽しませている。(楽しんでいる人=行楽客)

C ^{しえきうけみぶん} ^{つか} ^{ぼあい}
使役受身文を使う場合

1. ^{じぶん} ^い ^し ^で ^は ^な ^く [・] ^{ほか} ^の ^{ひと} ^に ^{きようせい} ^さ ^れ ^て ^{そう} ^す ^る ^と ^{いう} ^{とき}
 自分の意志ではなく、ほかの人に強制されてそうするとき
 (迷惑だという気持ちがある。)

例・子供のとき、母によく手伝いをさせられた。(手伝いをした人=わたし)
 ・入社当時は社内の規則をいろいろ覚えさせられた。(覚えた人=わたし)

2. ^{ある} ^{こと} ^が ^{げんいん} ^で ^{ひつぜんてき} ^に ^{その} ^{よう} ^な ^{かんじょう} ^が ^{おこ} ^る [・] ^{こうい} ^を ^{する} ^と ^{いう} ^{とき}

(主語は話者。いい感情を表す場合はあまり使わない。)

例・彼の自分勝手な行動にがっかりさせられた。(がっかりした人=わたし)
 ・一生懸命仕事をしている人を見て、大いに反省させられた。(反省した人=わたし)

練習1 ^{てきとう} ^{えら}
 どちらか適当な方を選びなさい。

- このところうまくいかないことが多くて疲れていた。でも、(a 友人の言葉が元気づけた b 友人の言葉に元気づけられた)。
- 犬は人間とは違う。人間と同じ物を(a 食べられない b 食べさせない)ほうがいい。
- すみません。よくわからなかったんですけど、もう一度(a 説明してくださいませんか b 説明させてくださいませんか)。
- 母は病院で3時間も(a 待たれた b 待たされた)らしい。疲れて帰ってきた。
- 君には期待しているのだ。(a 失望されなくて b 失望させなくて)ほしい。
- 子供にパンを買いに(a 行かせたら b 行かされたら)、お金を落としてしまった。子供は泣きながら帰ってきた。
- 最近の子供の事情について説明を受けた。改めて(a 教育の大切さが考えられた b 教育の大切さを考えさせられた)。
- うちの子は朝、(①a 起こされなくても b 起こさせなくても)自分で起きて、学校に行く準備を(②a します b させます)。親を(③a 心配する b 心配させる)ようなこともしません。



練習2 ()の中の動詞を文章の流れに合う形にして、書き入れなさい。

- 1 わたしは人には強い人間と(①思う→)いるらしいが、実は非常に気が弱い。これは自分が一番よく(②知る→)いることだ。仕事の関係で、周りの人に頼りない男という印象を(③持つ→)まいとして、表面的に強がっているだけのことだ。
- 2 子供には小さいころからいろいろな経験を(①する→)ほうが良いと思って、できる範囲で家事も(②手伝う→)います。時には、子供たちに不平を(③言う→)こともありますが、子供たちにしても家の中のことをいろいろ(④する→)のは楽しいと思っっているようです。
- 3 ごみの出し方が(①守る→)いない。燃えるごみと燃えないごみを別々に(②出す→)ことはもう常識である。今は、ペットボトル、かん、びん、容器包装プラスチックが資源として(③集める→)いる。この容器包装プラスチックというのは、商品の中身を(④使う→)後で不要になったプラスチックのことがあるので、清掃局では困っているようだ。
- 4 車の運転免許を取るのは大変だった。怖い教官に何回もアクセルやブレーキの練習を(①する→)。わたしは特別に下手だったので(②しかる→)ばかりいた。教官の教え方も悪いのだ。腹が立ったので「③(しかる→)ばかりいないで、わかりやすく教えてくださいよ。」と文句を(④言う→)。この言葉が教官を(⑤怒る→)らしく、以後、彼は、わたしの指導はしなくなった。
- 5 日本は四方を海に(①囲む→)いる。当然、漁業によって暮らしを(②立てる→)いる人が多い。漁業を(③営む→)いる人たちの間で(④知る→)いるのが「魚付林」という言葉だ。海と林とは関係がなさそうに(⑤思う→)が、実は大いにあるのだ。森林に(⑥降る→)雨は、大地にしみ込み、そして、海に流れこむ。この水にはミネラルが多く(⑦含む→)ので、海藻や魚に豊富な栄養を(⑧与える→)のである。

まとめ 次の文章を読んで、文章全体の内容を考えて、 1 から 5 の中に入る最もよいものを1・2・3・4から一つ選びなさい

自分の考えに自信をもち、これでよいのだと自分に言いきかせるだけでは充分ではない。ほかの人の考えにも、肯定的な姿勢を 1 しなくてはならない。どんなものでもその気になって探せば、かならずいいところがある。それを称揚する(注1)。

よくわからないときにも、ぶっつけに、「さっぱりわかりませんね」などと水をかけるのは禁物である。

「ずいぶん難しそうですが、でも、何だかおもしろそうではありませんか」とやれば、同じことでも、 2 はまったく違ってくる。すぐれた教育者、指導者はどこかよいところを見つけて、そこへ道をつけておく。 3 では、多少、けなされていても(注2)、 4 をよりどころにして希望をつなぎとめることができる。

全面的に否定してしまえば、やられた方ではもう立ち上がる元気もなくなる。 5-a でダメだと言うのでさえひどい打撃である。ましてや 5-b からダメだときめつけられたら、目の前が真っ暗になってしまう。

(外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫による)

(注1) 称揚する：ほめる

(注2) けなす：悪く言う

- 1
1 とるように 2 とられるように 3 とらせるように 4 とらされるように
- 2
1 与えさせる感じ 2 与えさせられる感じ 3 受ける感じ 4 受けさせる感じ
- 3
1 批評した側 2 批評された側 3 批評させた側 4 批評させられた側
- 4
1 ほめたところ 2 ほめられたところ 3 けなしたところ 4 けなされたところ
- 5
1 a みんな / b 自分 2 a 他人 / b みんな
3 a 他人 / b 自分 4 a 自分 / b 他人